１５．Ｃ－０１

長期臨床実習において実習指導者と学生の成績評価優先度の比較

理学療法士学科昼間部

【背景】

臨床実習における成績評価基準の研究報告は，現職者・学生の一方を対象としたものが多く，両者を比較検討した報告は限られている．また，養成課程の違いや，学生が配置される実習施設で実習指導者とその指導方法が異なることなど，各施設で異なり評価基準も曖昧である．そこで本研究は，初めての長期臨床実習である評価実習において学生と現職者の評価基準の優先度に差が表れていると考え，双方の相違を把握することで実習に臨む学生の不安の軽減を図る目的にアンケートを作成し調査を行った．

【対象および方法】

対象者は協力が得られた長期実習未経験の本校理学療法士学科学生 78 名と，現役理学療法士・作業療法士 44 名である．実施方法として本校の実習成績評価法を元にアンケートを作成し，1～5 段階の多項選択回答形式を採用した．内容は，1)「とても重要視している」，2)「やや重要視している」，3)「どちらでもない」，4)「あまり重要視していない」，5)「重要視していない」とした．倫理的配慮として研究の目的・方法を説明し，参加の任意性や個人情報保護などの同意書を作成し署名を求めた．

【結果】

学生側は全項目に対し重要視，とても重要視しているという回答が多くみられた．現職者では重要視している項目と，していない項目に差が見られた．学生と現職者で大きく差が見られた項目を比較した結果，「デイリーノートの質」，「動作観察の表現の的確さ」，「検査測定の手順」に特に差が見られた（図1）．

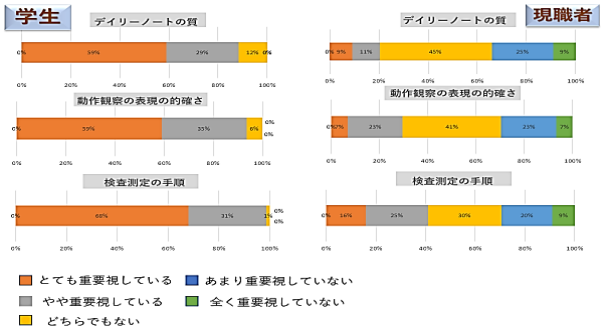

図１：学生と現職者で大きく差が見られた項目

【考察】

「デイリーノートの質」に関しては，学生は日々の習慣であり，現職者とのコミュニケーションツールとして考えているが，現職者は臨床現場での指導を優先しているため，デイリーノートの質はあまり求めない傾向にあると考える．

「動作観察の表現の的確さ」に関しては，学生は理学療法士として動作観察が大事であるイメージが強いことから，重要視していると考える．現職者は「どちらでもない」という回答が 1 番多く表現の的確さよりも観察結果から障害原因の考察や，障害に合わせた動作観察の選考を重要視していると考える．

「検査測定の手順」に関しては，学生は検査測定実習を終えており，正確に遂行する必要があると考えているが，現職者は検査中の患者様の容態を把握できていないという意見もあり，「どちらでもない」という回答が多かったと考えられる．

【まとめ】

先行研究より現職者は，学生の患者に対する態度に加え，提出物の期限厳守や実習中欠席時の連絡といった社会規範を重要視していることが明らかとなっている．本研究でも学生と現職者の双方で態度面を重要視していることが明らかとなった．

今回の研究では対象とする現職者が少なかったため，アンケート結果に分散が生じた．今後はさらに多数の施設や養成校に対して，調査をする必要がある．また，今回の調査では記入欄の無い多項選択回答方式を用いた事で，傾向の把握までの結果となった為，今後も研究，分析していく必要がある．

【文献】

1) 有谷知将，浅香貴広・他：理学療法教育の初期臨床実習に臨む学生の不安に関するCSポートフォリオ分析．帝京科学大学紀要．10，2014，125-135.

2) 白石和也，宮原拓也・他：実習の到達目標の達成に影響する実習指導要因の検討. 理学療法科学. 33(2), 2018, 347-352.

3) 吉村茂和，宮﨑純弥：臨床実習教育のあり方―臨床実習教育における学生評価の観点から―．理学療法ジャーナル．40(1)，2006，29-35.